

とばびと活躍プロジェクト

～鳥羽で暮らす人々が生涯いきいきと活躍できるまちづくり～

市では、市民のみなさん（とばびと）が、生涯いきいきと活躍できるまちづくりを推進するため「とばびと活躍プロジェクト」を進めています。

企画財政課企画経営室 ☎ 25 1101

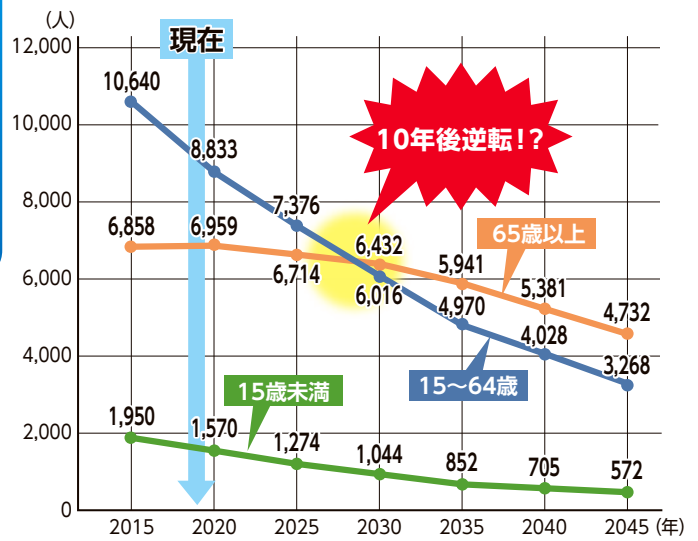
鳥羽市は年間約430万人もの観光客が訪れ、その内約170万人が宿泊する全国でも名高い宿泊観光地です。市内には約160軒の宿泊施設があり、たくさんのかたの就労の場となっています。

しかしながら、近年では宿泊業を始め雇用確保が課題となっており、人手不足によって事業の縮小を余儀なくされていることが危惧されています。

その反面、市民のかたからは市内での働く場が不足しているとの声が聞かれるなど、事業所側の就労条件と、働きた

鳥羽市の現状

65歳以上の人口が働き手世代（15歳～64歳）の人口を上回る時代の到来



(出典)
2015年国勢調査
国立社会保障・人口問題研究所による「鳥羽市の将来推計人口平成30年(2018)年推計」(平成27年度国勢調査を基に推計)

い人が希望する仕事内容のミスマッチが起こっています。

多くの観光客が訪れる魅力ある観光地として、お客さまを受け入れ、おもてなしをする働く人の存在は非常に大切です。

鳥羽市の人口は1960年をピークに減少し続けており、2045年には1万人を割ることが予想されています。さらに、15歳～64歳までの生産年齢人口（働き世代）が減少し、事業所と働きたい人のミスマッチによる人手不足に加え、さらに働く人が減少することになり、地域産業の衰退が懸念されます。

地域共生社会に向けて

人口が減少し高齢化が進むと、「支える側」といわれている若い世代（15歳～64歳以下）が減少し、「支えられる側」といわれている65歳以上の高齢者が増加していきます。しかし、「支えられる側」は年齢だけで決められてしまうものでしょうか。

厚生労働省が発表した2017年の日本人の平均寿命は、男性81.09歳（世界第3位）、女性87.26歳（世界第2位）となっています。65歳以上のまだまだ元気な方が増加するのであれば、「支える側」になることも十分に考えられます。わたしたちは「年齢」というモノサシだけでモノゴトを決め過ぎているのかもしれない。

生きがいとしての「働く」こと

そういった「支える側」「支えられる側」という関係を超え、全てのかたが地域の中で互いに支え合い、それぞれの役割を持ち、自分らしく暮らす社会を実現していく「地域共生社会」の実現に向けて、鳥羽で暮らす人々が活躍するまちづくり、それが「とばびと活躍プロジェクト」です。

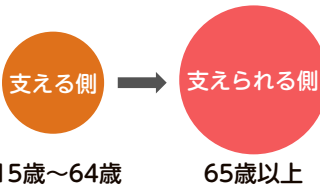
とばびと活躍プロジェクトでは、まず「働く」ということに視点を置き、「働く」を通じて生涯いきいきと活躍できる社会をつくるため、市民と事業所へのアンケートから課題を見だし、さまざまな分野でのアクションプラン（実施していく取り組み）を掲げました。

人口減少社会に向けての対策

地域共生社会ってどんなことか？

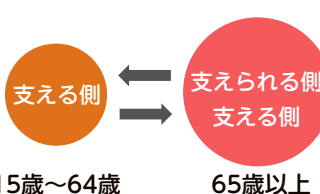
これまで・・・

支える側への期待が大きいから、支える側の年代が減少することを危惧。



これから・・・

お互いが支え合う地域づくり



1. 若者の就業先への要望と実態

●事業所側への質問 (アンケートから抜粋)

求人募集方法は？

1位	ハローワーク	31.1%
2位	友人・知人・家族の紹介	29.7%
3位	新聞の折り込みチラシ	11.8%

●市内の学生への質問 (アンケートから抜粋)

就職を決める際に意見を求める先は？

1位	親	46.7%
2位	進路指導や担任の先生	30.0%

アンケート結果から分かること

- ・求人情報を多く出しているものの、採用活動よりも優先する業務が多く、積極的な採用活動を行っている事業所が少ないことが分かります。
- ・高校や大学などへのアプローチやインターン (学生が一定期間企業で働く職業体験のこと) の受け入れなどによる学校との接点を作る必要があります。

とばびと活躍プロジェクトアクションプランによる施策 (アクションプランから抜粋)

・鳥羽市無料職業紹介所の開設 (平成 30 年 10 月 1 日～)

事業所と働きたい市民のかたをマッチングするため、無料職業紹介所を開設しています。

・宿泊業就労体験バスツアー

市内外の就職を希望する若者を対象とした就労体験 (見学) バスツアーを実施し、就職につなげます。

・市内事業所でのインターンシップ推進

市内事業所のインターンシップ受け入れを推進し、学生が市内で就職するきっかけを作り、就職後のミスマッチによる離職を減らします。

2. 新たな労働力の活用

●事業所側への質問 (アンケートから抜粋)

働いている人の就業形態は？

1位	正社員・正職員	60.8%
2位	パート・アルバイト	28.6%
3位	限定正社員・契約社員・派遣社員	10.6%

「パート・アルバイトが不足している」と回答した職種別の割合
ホテル・宿泊業 65.0% 飲食業 42.9% 運輸業 42.9%

●市民への質問 (アンケートから抜粋)

「働いたことがない/今現在、働いていない」と回答した人の割合

1位	女性 30～59 歳	19.8%
2位	女性 18～29 歳	16.9%
3位	女性 60 歳以上	14.7%

アンケート結果から分かること

- ・事業所ではパート・アルバイトの比率が高く、従業員数の不足感があります。
- ・時間的制約などにより正規雇用が難しい子育て中の女性や 60 歳以上のシニア層の活躍が期待されます。

とばびと活躍プロジェクトアクションプランによる施策 (アクションプランから抜粋)

・プチ勤務市民就労促進事業

1 日の仕事を分解し、1 日 2 時間から働ける「プチ勤務」を作り、市民とのマッチングを図ります。

・得意分野を活かす人材の登録制度確立

自身の得意な仕事や作業といった得意分野を活かせる仕事の場づくりを行います。

・子育て世代の保育サポート事業

子育てと就労を両立しやすい仕組みを整えます。

鳥羽ストーリーズ・アートプロジェクト「安楽島」

観光課 ☎ 25 1157

鳥羽ストーリーズ・アートプロジェクトは、アーティストが地域に滞在し、地域固有の歴史や文化、人々のストーリーを題材にした作品を制作する取り組みで、女子美術大学のリンダ・デニス准教授が企画したものです。2017 年の「鳥羽なかまち」に続く 2 回目の舞台は、安楽島となりました。

女子美術大学と安楽島町のみなさんがペアとなって交流することを通じて、地域の歴史や文化、思い出などのさまざまなストーリーが作品に反映されています。ぜひ安楽島町に足を運んで、作品をご覧ください。

とき 8 月 10 日 (土) から (※)

※ 8 月 10 日 (土)～12 日 (月・振) はアーティストが滞在します。

※ 長期開催を予定していますが、最終日は未定です。

ところ 安楽島町各所

くわしくは、ARToba ホームページをご覧ください。



ARToba
ホームページ



作品の展示場所 (10 作品)